

令和 8 年 6 月 青葉区議員団会議 会議録	
開催日時	令和 8 年 6 月 11 日（木） 午後 4 時 00 分～
場 所	青葉区役所 4 階会議室及び W e b 会議
出席者	【議 長】 内田みほこ議員 【議員：10名】 田中ゆき議員、山下正人議員、伊藤くみこ議員、横山正人議員、行田朝仁議員、おさかべさやか議員、藤崎浩太郎議員 赤野たかし議員、小島健一議員、青木マキ議員 【説明局員：27名】（青葉区：21名） 中島区長、鈴木副区長、岩岡福祉保健センター長、 今井福祉保健センター担当部長、小田嶋土木事務所長、 佐藤消防署長、宮崎総務課長、ほか関係職員
次 第	報告事項 1 令和 8 年度 青葉区内の主要な事業について (区政推進課 資料 1) 2 都市計画マスタープラン地域別構想（区プラン）の改定の方向性について (区政推進課 資料 2) 3 青葉区美しが丘西市有地の利活用について (建築局住宅再生課 資料 3) その他 ・青葉警察署管内の情勢について (青葉警察署 資料 4) ・青葉区火災・救急状況 (青葉消防署 資料 5)
報告事項 1	令和 8 年度 青葉区内の主要な事業について
発言の 要 旨	資料 1 に基づき、区政推進課から報告 赤野議員 確認だが、令和 8 年度の主要な事業の青葉区の地図の中で、⑮の高速 3 号線の延伸の話が出ているが、地図上であざみ野駅からポツポツといくつか四角があって、多分駅が想定されている箇所だと思うが、あざみ野駅を除くと 3 つではなく 4 つか。 井波区政推進 課担当課長 この地図の四角の線だが、実線ではなくて、あくまで点線ということで、概ねのルートイメージしている。前に出された暫定の駅位置ではなく、概ねの線をこの縮尺の地図に入れている。 赤野議員 理解した。

	田中議員 青葉台駅周辺にブックス&ラウンジが来年の春に開所予定ということだが、通勤とか、買い物の方がふらっと立ち寄れるような場所ということで、まだ具体的な情報は今年夏頃を目途に出すと図書館の所管から聞いているが、区としては、地域ニーズを市と共有して、設置場所とか、フロアの感じとか話を進めているのか、それとも市の図書館の所管が全部決めることなのか教えていただきたいと思います。 中島区長 この事業については基本的には教育委員会で実施しているが、私どもかねがね青葉区の図書機能の充実というご意見を、地域からも、また議員の皆様からもいただいていたところである。これらを踏まえて教育委員会に話していたことが、こういう形で結実したんだと認識している。 田中議員 ありがとうございます。十分に私どもの声だけではなくて、地域の皆さんの声も届いていると思うので、情報が出るのを楽しみにしている。
報告事項 2 都市計画マスタープラン地域別構想（区プラン）の改定の方針について	
発 言 の 要 旨	資料 2 に基づき、区政推進課から報告 横山議員 先ほど、区づくり市会議員会議でも少し申し上げたが、今回の都市マスの改定、区マスの改定は非常に大切だと思っていて、特に人口減少期に入って、これをどう食い止めるかというのは、マスタープランにかかっているんだと思っている。横浜市の本体も、例えば、青葉インター周辺など、都市活用を図れるところについて、踏み込んでいくというような答弁が、議会の中でも出ているので、私はあまり心配はしていないが、しっかりとそれを区マスに反映していく必要があると思うのだが、インター周辺については、今の段階でどのように考えているか。 井波区政推進 都市計画に関する部分もあるので、これからエリア別の中で議論が進んでいくと思う。区としてもその中でしっかり意見交換をしながら、どのような形にしていくのがいいのか、検討していきたいと考えている。 横山議員 なかなか、マスタープランの中で、人口減少だとか、目標人口だとか、こういう考え方っていうのは今まで出てきてないが、さっきも区づくり市会議員会議で申し上げたように、青葉区の目標人口は 30 万人に設定するというような、一つ大きな目標を持たないと、歯止めがかかってこないというふうに私は思っている。この 30 万人を切ると、なだれ式に減少に弾みがかかってきてしまう。だから、この 30 万人は守るということを、様々な青葉区の施策の中に展開していく必要が、私はあると思

	う。なので、このマスタープランの中に、この人口規模という目標値を、定めていくっていうことも、僕は必要なことだと思うのだが、どうか。
井波区政推進 課担当課長	人口規模という項目で今まで検討、議論はしていないが、先生のおっしゃるとおり、特に青葉区は、区画整理で一気に開発して、人が一気に流れ込んできた街なので、ちょうど 60 年程度経ち、入ってきた方々が一周してくる時期を迎えている。そういった意味では、人口に関しては非常に大事な問題だと思っているし、区長も先ほど申し上げたとおり、町田市など都市間競争が生じていると認識している。区マスの中では、ニュータウンとして更新時期が来ていることや、他都市との競争が激しいといったことは視点としてあるが、人口の数をダイレクトに入れるかということは、検討は進んでいない。人口が減ることの危機感というのは、区マスの検討の中で、強く持っている。
横山議員	人口減少に対する危機感というのは、いろんなところで出ている。それをより、現実味を帯びたマスタープランにしていくために、私は人口目標というものをやっぱり設定して、これを守っていくんだと。人口が減るってことは、さっきも申し上げたとおり建物が残るから空き家が増えていくってことであり、さらに言うと、人口が減少することによって市民サービスも低下してくるし、今の生活水準が維持できなくなる可能性が十分高いわけである。だから人口は必要なのである。一つ例で申し上げれば、例えばバス便の減少だったりとか、まさに人口減少に伴ってそういうことが起きてる。今住んでいる人たちのサービスすら守れない、こういう現状があるわけだから、今のこの青葉区の現状を考えれば、30 万人というのは、私は生命線だというふうに思っているので、ぜひそういうことを反映したような、マスタープランにさせていただくようお願いしたいと思う。
山下議員	先ほど私も区づくり市議会議員会議の中で話したのだが、区の中でマスタープランを作ったものが、今、横山先生が言われたように、企業誘致だとか、人口誘導なんかというのは、エリア別の方にシフトがかかってくると思うのだが、今日はわざわざ都市整備局から部長が来ていただいているので触れていきたいのだが、青葉区から今まで区のマスタープランで入っていたものが、今度そういう分野に対しては、エリアの方の方針があると思うのだが、区の方から出てきた意見というものは、それはどういうふうに反映していくという形になるのか。

光田都市整備局地域まちづくり部長	今回はエリア別と区別に分かれたということで、エリア別の方に先生がおっしゃるように、高度利用の考え方とか、都市機能の配置とか、そういったものも含まれる。そういったことに関する意見については、今年度から、改定の方向性と、それに基づくパネル展や市民アンケートを実施する。それと区役所の方でも地域のヒアリングというのを並行してやっていく。その中でいただいたご意見について、都市計画に関する基本的な方針の部分については、エリア別にしっかりと区と連携して反映をしていきたいというふうに考えている。
山下議員	はい、ぜひ、その辺は長年の課題になるので、しっかり反映していただきたいと思う。それともう一点、北部のエリアに関しては、やっぱり田園都市沿線を中心にした鉄道事業者である東急などと協力はしていたということだが、青葉区の場合、隣の川崎との関係では、今度、鷺沼が再開発されるし、北部市場が今度、今サウンディング調査をして、商業施設か何かになるみたいな話を聞いている。その辺の、横浜市内だけだったら全てエリアで解決するが、市をまたぐところ、多分青葉とかは特に影響を受けるので、その辺の考え方について、どういうふうに思っているのか。
井波区政推進課担当課長	当然、川崎の動きというのは、先ほど言った都市間競争という視点があるので着目している。最近では隣の鷺沼駅での開発であったり、新百合ヶ丘の方もいずれ動きが出てくるというのは、区の今後に影響する項目として、強く意識はしている。東京から青葉区の方が遠いので、それでもやはり川崎よりも、その地価であったり、いろんなものを維持しているといった青葉区の特徴をどう守っていくのかというのは、区マスの中で考えていくものだと思っている。
山下議員	もちろん都市間競争という面ではそうなるかもしれないが、ただ、お隣同士で協力し合っていかなきゃいけない項目もあると思うのだが、いがみ合っているといい結果にならないので、川崎との意見交換の場ってなかなかないと思う。その辺は、しっかり担保、区マスをやるにおいて、うちはこういう考え方でやっているよとか、川崎市はどう考えてるのという、やっぱり情報共有していく部分は、必要ではないかなと思うのだが、その辺はどうお考えか。
井波区政推進課担当課長	マスタープランについて今のところ情報共有していないが、例えば、すすき野のように二つの町が一体化しているところでは、昨年ぐらいから、まちづくりについて、川崎市や麻生区の方と、一緒に地域の話し合

	いをしたり、イベントを組んだりとかいったような関わりを持っている。区マスについても、策定の中で、向こうの意見交換の機会を設けていきたいと考えている。
山下議員	わかった。
藤崎議員	まず、現行の区マスの評価というか、次の区マスも大事だが、そもそも、今の現行をどう評価しているのか、どこまでできたと皆さんが捉えていて、どこまでできましたよと、区民に説明できるのかというのが、今の説明では分からなかったなので、まず伺う。
井波区政推進 課担当課長	前にも先生から質問していましたが、現行の区マスについても、内部作業としては、実務的には振り返りの作業を進めているところである。今後、素案の案を示す場合には、当然現行のプランの振り返りのエッセンスのようなものも含めた形でご説明する必要があるのだと、まだその素案の案自体を作りきれていないので、その時の説明の形までは決まっていらないが、そのタイミングでは外に出せるかなというふうには考えている。
藤崎議員	ありがとうございます。非常に難しいものなので、例えば1億円かければかけたとおりに動きますっていうものとは違うので、必ずしも計画通りいかないことはあるかと思うが、区民の皆さんと、これから作っていくという作業においては、やっぱりその評価が、皆さんの評価だけじゃなくて、区民の皆さんが納得できる評価を皆さんが作ったのかどうかというのも重要な視点じゃないかなというふうに思うので、そういった視点で評価してもらえる資料を用意していただけるといいかなと思っていました。次に、改定のプロセスにおいて、市民アンケート・パネル展から始まる、ヒアリング等を行うということになっている。今回、青葉区の運営方針が、5月20日に示されたものがあるが、その中においても、やはり区民の皆様に暮らしやすい街への愛着をさらに感じていただくことともにみたいなセリフが書かれているので、やっぱりまちづくりは、ハードソフト、いろんな形でまちづくりってことになるし、愛着をどこにどう感じるかっていうのは、皆さん違うと思うが、ただ一方で、区マスが掲げていく、掲げていることの中でも、皆さんの、区の特徴とか愛着とか、そんな話が出ていたと思うが、魅力とか、そういったものが、どうやったら区マスに反映できるか。先ほどから人口の話もあるが、住んでいる方とか、住み続けたいとか、長年掲げてきた青葉区のテーマでもあり、これから若い世代がもっと入ってきてもらいたいというまち

	づくりもするだろうし、一方では、今住んでいる人たちが抱えている、感じている課題も区マスの中でやっていきたいということが、これからまた出されるのだと思う。そういう中で、やはり少なくとも今住んでいる皆さんの声は、これから住む人は、誰か分からないので聞けないが、今住んでいる皆さんの声はしっかり聞けるはずだから。市民アンケートとかヒアリングとかに、いかに住民の皆さんの意見が、多様な意見が反映できるかというところには力を入れていただきたいと思う。形式的にならず、別に皆さんがやってることは形式的だと言っているわけではなく、これからやることはさらに、難しい都市間競争だとか、いろんな言葉も出てきている中で、やっぱり今住んでいる皆さんの声を正面から受け止める作業を取りこぼせば、区マスっていうのが十分な市民のものにならないという可能性も感じているので。ここをいかに充実させられるか、ヒアリング等とか、いかに住民参加を充実させられるかということじゃないかなと思うが、改定スケジュールだけ見ると、どれぐらいあるか分からないので、前回基準にやってほしいということで、その辺の考えをお伺いします。
井波区政推進 課担当課長	今回も、まず今のプロセスで今年度中に行う作業が、素案の案を作る前の意見聴取ということなので、現時点での検討としては、できるだけ幅広く聞くことを考えると、アンケートのような形式であったり、あと局の方でもやるような関連の団体や事業者への個別ヒアリングというものを中心に考えていこうと思っている。一方で、これからこのプランが先を見据える時期に、大人になる子どもたちへの聞き方というのは、工夫して付け加えられればなというふうに考えている。
藤崎議員	ありがとうございます。要望で終わらせるが、例えば流山市が自治基本条例をやった時は、200回ぐらいタウンミーティングをやった。どういうことをやったかという、相手に合わせて曜日・時間から何から分けたのと、細分化して、商店会員とかにターゲットを作ったりとか、あらゆるターゲットを設定して、あらゆるターゲットが参加しやすい時間帯とかグループとかを設定して、小さくてもいいからたくさんやるということをやっていた。そこまでやれるかどうかというのは、区マスがそこまでやりきれぬのだが、やっぱり時間や曜日や会場であるとか、今であればオンラインが使えるとか、ただ説明会してやるだけじゃなくて、ワークショップ・グループワークみたいなのができるかもしれないし、そういうものを、あらゆる可能性を排除せずに、できるだけ多くの住民のターゲットを想定して、作ってもらえるといいものになるんじゃないかなと、それこそ、当事者意識を持って区マスというものを住民の

	皆さんにご覧いただけるのではないかなというふうに思うので、そういったことも取り組んでいただきたいということを要望だけして終わる。
報告事項3 青葉区美しが丘西市有地の利活用について	
発 言 の 要 旨	資料3に基づき、建築局住宅再生課から報告 横山議員 事前の説明をいただいた時に申し上げたが、子育て世代が青葉区に住んでいただくというのは非常にありがたいことで、ウェルカムな事業だと思う。ただ、この事業スキームをどう担保していくのかというのは非常に難しく、子育てといっても15年ぐらいでもう子育ては終わってしまうわけで、そのまま住み続けられると、今度高齢者住宅になってしまうから。例えば子育てが終わった場合は、家賃が高くなるとか。いわゆる次の世代の人たちに循環していただかないと、子育て住宅と私は言えないんじゃないかなと思う。あと、この集合住宅の中の、例えば一室を、保育所、学童保育の機能を持つような事業者に入ってもらおうとか。こういう、一ひねりも二ひねりもしないと、このお題目のこの子育て住宅は、守ることができないんじゃないかというふうに思うが、どうか。 佐藤建築局住宅再生課担当課長 ご指摘いただきました、子育て世帯を循環していくという仕組みにつきましては、先ほど、セーフティネット住宅として家賃補助というお話をさせていただいた。そういったメニューの中にも、子育て世帯向けというようなメニューもあるので、そういった補助制度も活用しながら、子育てが終わったら補助が終わって、少し家賃が高くなるとか、そういった仕組みを活用しながら、循環を促していければというふうに考えている。 横山議員 ぜひ、そこが、私、この事業の肝だと思っている。もう、子育てといっても15歳になったら、もう反抗期迎えて、いきなり子育てが終わってしまう。そうならないように、ぜひお願いしたいと思う。 赤野議員 この地域をよく知る一人として申し上げますと、先ほど説明があったように、20年、25年前から一気に住宅開発が進んだエリアでして、駅から距離があるからバス便が中心なんですけども、ご承知のように、住宅が増えたことに伴って公園利用者が非常に増えていて、多目的広場があるものだから、市のスポーツ大会とかも定期的にやっていたりとか。いわゆる路上駐車が散見されている。今日は青葉警察署の交通課も来ているが、パトカーの出動も何回か拝見している。そういう状況の中で、私が地元の声として受けているのは、せめてコインパーキング、駐車場を作

	ってくれないかというのがずっとあって。公園周辺にないですね。だから近隣の商業施設にお願いして停めさせてもらったり、あるいは無断で停めてしまったり、こういうことが日常に起きてしまっている。そういう人たちの声は、せめて近くにコインパーキングがあればそこに停められるんだけどっていう声がある。市の持ち物で何十年も寝かせてたわけだから、この計画に全部反対とは言わないが、一部区画については、やはりそこはそういう声を少し受け止めて、何か駐車スペースを数台持たせるとか、それは先ほど地元の声をよく聞くという話でしたので、そこをしっかりと丁寧に聞いていただきたいが、やっぱり地域で今どういう思いでこのエリアが活用されて問題が起きているのかというのを踏まえた上で、プランを立てるならいいけども、ちょっとそこは、私は異議を申し上げたいところだが、その辺はいかがか。
佐藤建築局住宅再生課担当課長	私どもの方で考えているこの事業は、やはり子育て世帯や若者世帯の転入・定住を目指すための住宅を整備するということを目的としている。そういったこともあり、なかなか公園利用の方の駐車場、敷地面積もそんなに大きくないものなので、なかなか難しい面はあるかと思っているが、この後、地域の皆様と対話させていただくことを考えているので、そういったところで、しっかりとご意見は受け止めて、検討はさせていただきたいと思っている。
赤野議員	時間も限られているが、もちろん公園を、いろいろと活用されてる方は自治会の方も含めて公共交通機関を利用してくださいってことは徹底している。それでもやっぱりエリア的にどうしても車の方が来られてしまって、公園周辺にはやはり路上駐車が目立って、それが住民の方のいろんな目に留まるところになって110番されているのかもしれないけれども、そういう状況は、土日を中心に起こっているということはしっかり受け止めていただいて、プランに反映していくことを求める。
田中議員	横山議員の話と連動してっていうところだが、この事業スキームの中には分譲も可能となっていると思うが、分譲住宅にした場合、やっぱり終の棲家と思って購入される方もいらっしゃると思うが、そういう点においては、定期借地を50年とか、事前に聞いたら70年に設定するかもしれないといった中で、分譲住宅についてはどうやって循環を促していくのか、それともその方たちについては定住していただくことを前提にして考えているのか教えていただきたいと思う。

	佐藤建築局住宅再生課担当課長 今回ご説明させていただきましたのは、これから事業者に対して、サウンディング調査、どういう事業だったらここで成立するか、この目的に合致して行くかというようなことを、ヒアリング、対話をしていきたいというふうに考えている。まだ分譲になるかどうか、ちょっとわからないようなところもあるので、分譲にした方がいいのか、賃貸の方がいいのか、そういったところも含めて、事業者の方と、しっかりと対話をしたうえで、公募の要綱に反映させていただきたいと考えている。 田中議員 ありがとうございます。これからということだが、この事業の目的とかを果たしていくには、どのような土地の利用の仕方がいいのかとか、賃貸の形がいいのかとかは、事業者の方といろいろご相談した上で進めていっていただきたいと思うし、まずは地域の方の理解だと思うので、丁寧に進めていただきたいと思う。 青木議員 今の田中委員の質問をちょっと掘り下げて聞きたいのだが、ここにセーフティネット住宅の対象ってことは、これが要件として課すという意味なのか、案なので、今決まっていってことは、もちろん承知したうえでだが、だとしたら、建売というのはないはずなんじゃないかなと思ったので伺いたいのと、これは公募という部分で言うと、どこまでを公募していく、全体を作っていくのも公募するという考えなのか伺いたい。 佐藤建築局住宅再生課担当課長 セーフティネット住宅とすると、賃貸前提になるので、そういったことも視野に進めていきたいと思う。それから、公募の範囲ということだが、これは、特に範囲は限定せずに、事業者さんを公募したいと思う。ただ、4の土地利用の条件のところに書させていただいている市内事業者の活用ということで、設計・施工等につきましては、市内の事業者の方にしていただくというようなことを今、想定をしている。
その他 1 青葉警察署管内の情勢について	
発言の要旨	資料4に基づき、青葉警察署から報告
その他 2 青葉区火災・救急状況	
発言の要旨	資料5に基づき、青葉消防署から報告